釧路新聞

平成15年2月20日

ＩＳＯの取得提案へ

別海町建設業協会21世紀会

22日に「中小企業セミナー」を開催

別海町建設業協会21世紀会は、品質管理の国際規格「ＩＳＯ９００１」の取得を提案する「中小企業セミナー」を22日午前10時から同町マルチメディア館で開く。中小企業の負担となる取得費用などを圧縮する合同研修方式を導入した同協会員の測量・設計会社「イソジェック」（磯田忠雄社長）が提案するもので、道内初の試み。水産、製造、居酒屋など他分野の参加も呼び掛けている。

水産、居酒屋など　他分野の参加呼び掛け

ＩＳＯは建築土木業とその関連企業にとって入札参加資格や業務成績に加味されるなど、業社間の差別化の材料ともなってきている。また建設業だけでなく消費者対策として水産業や製造・加工業、居酒屋などすそ野も広がっている国際規格だ。

ただＩＳＯ取得は、小規模企業にとって人員面や費用面で大きな負担となり、「取得したくても取れない」状況を生んでいた。22日に開くセミナーはＩＳＯ規格の重要性などを説明するほか、同規格を早く安く取得できるシステムを提案する。

当日講師を務めるのが同町内の「イソジェック」。同社は中小企業支援の横浜アド・プロモーション協同組合（横浜市）とコンサルタント業、東京スコットマネジメント（東京都中央区）が共同開発したプログラムを活用。従来、個別企業ごとに行われていた取得業務を集団研修方式とし、個々の負担軽減を図ることでコストを圧縮した。

同21世紀会では「根室管内の底上げのために提案したい」と話しており、建設業だけでなく異業種の参加も歓迎している。当日は会場で取得相談も受け付ける。参加無料。

（山本繁寿）

サフニロ側　経済学の視点求める

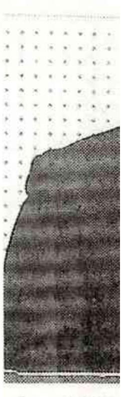
ワークショップ2日目は根室市、サフニロが共同研究案を示した。根室市側は宮谷内亮一水産経済部長が6項目の柱で提案した。

根室、北方四島、サハリン沿岸でカニ資源について①稚ガニ着底の定期的な定点調査②ミトコンドリアーＤＮＡ分析による系統群調査③成ガニの移動範囲についての研究ーが必要とした。

分布が3海域に限られる花咲ガニの鮮度保持、品質に関するデータが乏しく、①鮮度指標の調査研究②漁獲から水揚げまでの輸送中の鮮度維持方法の研究③3海域で水揚げされる花咲ガニの海域、時期別の成分調査ーの3点を挙げた。

ほかに①資源回復に向けたカニかごの最適設計の開発②遺伝子、カニの集団構造研究③潮汐による千島列島周辺での浮遊幼生分散の数値モデル開発④資源回復でのさまざまな対策の費用対効果の研究を付け加え、プログラムと共同研究の「日露行動計画」への組み入れをサフニロ側がロシア政府に働きかけるよう求めた。

サフニロ側のシュキー



カニ資源
術の研究

資源量を
を研究に
ーナ氏

個体数で農業被害や交通事故の

庁は、2月下旬から3月中旬にかけ別海町走古丹地区にハイタワーを設置し、エゾシカ捕獲方法検討調査を行う。同調査でハイタワー方式の有効性を試すほか、捕獲した個体をもとにエゾシカの栄養摂取、年齢分布などの基礎データ収集もあわせて行う。

エゾシカ捕獲方法検討調査は、支庁が主体で別海町と道猟友会別海支部の協力を受ける。捕獲は欧州で普及するハイタワーを別海町走古丹地区の3カ所に設置する。ハイタワー設置は24日から20日間で、水曜の日中に出没調査を行った上で木曜と週明けの月曜の週2回のペースで捕獲。翌日夜にライトセンサスを行う。

ハイタワー方式とは、高さ約10㍍のやぐらを猟場に設け見下ろす形で射撃、捕獲するもの。道東地区で2000年実施の釧路管内西部2町での調査で導入済み。銃口が地面に向き、ライフル銃で数㌔先に届く流れ弾が地面に食い込むことから猟場の安全対策に有効とされている。走古丹地区が根室海峡と風蓮湖にはさまれた砂州という地形から同方式を試みることになった。

策はエゾシ
画（199
001年改
冬の狩猟期
和策で緊急
措置を進め
トセンサス
でに行った

根室の増田さん道善行賞

鈴木さん　交通安全指導員・奉仕員顕彰

根室市内
進員として
昭和町4の
昭夫さん（70
年度道善行
実践者）、
の209、
（74）が道交
員会の交通
奉仕員の顕
日根室市の
ら伝達され
道の善行